



ひとりにしない
子育て・介護
支えあい分かちあう
地域共生社会へ

練馬区議会議員

かっこ
やない 克子

保健福祉委員会
医療・高齢者等特別委員会



練馬区議会議員

やまさき
山崎 まりも

文教児童青少年委員会
みどり・環境等特別委員会



生活者ネットワーク 区議会ニュース

2025年 第二回定例会(6月2日~24日) 報告号



区民との対話を重ね共に進める区政を

美術館・図書館の改築、道路計画などのまちづくり、学校の統廃合など議会でも賛否の分かれる案件の根底には、区民と対話を重ねる姿勢がない「区政の進め方」にあります。

対話なくして区長がいう「住民の参加と共同による地域自治の確立」の実現はありません。

今回の一般質問では、そんな区の姿勢を問いなおしました。

一般質問7項目

Q1 区長の基本姿勢について

区立美術館再整備は2029年リニューアルオープンありきではなく、解体工事も含めて計画を見直し、区長自ら住民の合意形成をはかるべき

Q2 気候危機とまちづくりについて

まちづくりは、区長のひと声で決めるのではなく、環境、都市整備、福祉、産業など各部局や多世代の地域住民、市民活動団体などとも対話を重ねて、ゼロカーボンシティの実現に向かうべき

Q3 介護人材の確保・育成について

今年度開始の「訪問介護採用応援補助事業」は学生が対象外。人材確保には意志ある人を支援するあらゆる手立てを尽くすべき。対象の拡大を

Q4 障害のある方の移動支援について

移動は基本的人権。人材育成・定着のための報酬引き上げや、独自加算など、さらなる障害福祉サービス事業者支援を



一般質問を行う
山崎まりも
第二回定例会6月16日

Q5 ボランティアの多様な情報発信について

「個人の困った」と意志あるボランティア希望の区民とをつなぐために多様な情報発信の検討を

Q6 部活動の地域移行について

教育委員会や地域文化部だけでなく、参加にかかる経費の補助や、居場所の確保など、子どもに関する様々な施策を講じる関係部署とも同時に連携をとっていく横断的な体制整備が必要

Q7 中学生の放課後の居場所について

中学生が安心して過ごせる専用の居場所を当事者の声を聞きながら早急に作るべき

→詳しくは中面へ

「政治は生活を良くするための道具」です！

生活者ネットワークではみなさんからの声をもとに議会での質問を組み立てています。今回の詳しい質疑の内容は区議会HPでも確認できます。

練馬区議会放映 令和7年 第2回6月16日 山崎まりも→



一般質問
山崎まりも

気候危機とまちづくりについて

練馬区は2022年にゼロカーボンシティ宣言をし、2050年にCO2の排出実質ゼロをめざすことを掲げています。

昨年の夏は35度を超える猛暑日が続き、外での部活動や遊びができない、高齢者の熱中症など、生活の中で新たな課題も浮かび上がりました。気候危機は、もはや環境問題にとどまらず、命の問題であり、人権の問題です。

Q まちづくりについて。風の流れをふさぐコンクリートの高層ビルや道路で埋め尽くすまちづくりでいいのか、安心・安全のためにも歩道と車道を分けた道路整備は必要、などさまざまな意見があります。だからこそ区長のひと声で決めるのではなく、環境、都市整備、福祉、産業など各部局と区民とで対話を重ねゼロカーボンシティの実現に向かうべきです。

A パブリックコメントで寄せられた意見を反映するなど、計画の策定、まちづくりにおいても対話を重ね、丁寧に進めている。

プラスチック削減も 気候危機対策の ひとつです

東京は大量に資源を利用しています。プラスチックは樹脂の生産から廃プラスチックの処理まで**各プロセスでCO2が排出されていますが**、他県で焼却されることもあり、その量は換算されていません。

地球環境が危機的状況にある中で、将来世代への責任を自覚しながら東京で暮らす私たちがプラスチック製品を使わない生活スタイルへと見直す必要があります。

美術館再整備計画 解体工事はいったん停止に

区立美術館、貫井図書館の建て替え費用が当初見込みの76億円から現時点で109億円になることが明らかになり、完成時の総建築費用がいくらになるのか、現時点では歯止めがありません。

区は、毎年の予算編成に際して厳しい財政状況を強調しています。そのような状況の中で、現時点で建設費が100億円を超え、さらに上昇することが見込まれる再整備計画に疑問を抱き、異論を持つ区民は少なくありません。

今年度予算でサンライフ練馬および美術館、図書館の解体費用が計上されていますが、2029年度のリニューアルオープンありきですめるのではなく、解体工事の時期も含めて再整備計画を見直し、**区長自らがひざ詰めで住民との合意形成を図るべきです。**

ボランティア「求む」「したい」 多様な情報発信でマッチングを

「散歩の付き添いボランティア募集」「車いすでの外出や通院同行のご協力募集」など、世田谷区の社会福祉法人世田谷ボランティア協会のサイト上に「新着ボランティア情報」が掲載されています。

練馬区では、社会福祉協議会が月に一度発行する、練馬区ボランティア・市民活動情報誌「ぼけっと」でボランティア情報を発信していますが、必要とされているボランティアの情報が、意志ある区民の目に触れるように多様な情報発信が必要です。一般質問で「個人の困った」に意思あるボランティア希望の区民が応えられるための検討を求めました。

今後、社会福祉協議会のSNSを通じてわかりやすく発信していくとのことです。

中学生部活の地域移行と放課後の居場所について

区は、部活動を学校から切り離し、地域移行していく方向。目的の一つである教員の働き方改革は喫緊に取り組むべき課題だが、部活動が担ってきた様々な社会的な役割の大きな損失にならないか心配。

平等に教育を受ける 子どもの権利の視点を

Q 部活動は、文化・スポーツを体験・挑戦できること、居場所的機能や勉強は苦手だけれど部活動は楽しみな生徒もいるなど「**重要な社会的な役割**」を持っています。地域に移行していくことは「**公共的機能の大きな損失**」にならないか。特に経済的な理由で参加を断念することがないよう、かかる経費の補助や居場所の確保など、平等に教育を受ける子どもの権利を守るためにも、様々な施策を講じる部署と連携をとっていく横断的な体制整備が必要です。

A 課題を整理し、必要に応じて関連部署と協議しながら取り組んでいく。

中学生の放課後の 居場所の拡充を

Q 部活動の地域移行に伴い、中学生が放課後安心して過ごせる居場所がさらに必要です。人間形成期の子どもたちにとって、**リアルな友だちとの関わり**は、コミュニケーション能力を培い、他者との対話の経験を積むために大切なことです。区が取り組む児童館の中高校生タイムは曜日も時間も限定的。**中学生が「ここにいてもいい」と感じられる専用空間**をつくるべきです。

A 中高生タイムの利用者は年々増加。引続き中高生の声を聞き居場所の拡充を進める。

コロナ禍で小学校時代、活動を制限されてきた子どもたち 人と関われるリアルな場をこれ以上減らさないで

文京区にあるb-lab(ビーラボ)は「過ごしたい“放課後”を自分で選ぼう」というキャッチコピーで、中高生と共に若者支援NPOが運営する中高生向け施設です。Wi-Fiや電源、音楽スタジオを備えるなど多様なニーズに応えており、中高生が自らの興味や関心に基づいて活動できる専用空間です。

練馬区にも**信頼できる大人とも出会い、仲間とつながり、学びや表現にもつながれる中高生の居場所が早急に必要**です。



出典: 文京区青少年プラザ b-lab(ビーラボ)HPより

どうなる?
豊溪中

区立学校適正配置計画による小中学校の統廃合

年少人口の減少に伴う区立学校の小規模化や学級規模の格差を解消するため、区は「適正配置基本方針」を策定しています。

その計画のひとつに、旭町地区唯一の中学校の豊溪中学校と光が丘第一中学校が、2029年を目処に光が丘第一中学校(現校舎)にて統合・再編される計画があります。文教児童青少年委員会で地域住民説明会の報告がありました。「豊溪中を残してほしい」「統廃

が必要なのか』の話からしたい」と要望する声も複数ありましたが、区は「計画をご説明しご理解いただく」という姿勢で平行線のままです。地域から中学校がなくなるということは、コミュニティ活動や避難拠点の面からも重大なことです。地域の合意なくして進めることはできません。

少子高齢化していく中で、子どもたちにとって、地域にとって、豊溪中はどうあるべきか。合意形成を図った上で進めていくべきです。

今年度から全ての中学校で 性教育講座が始まっています！

人権を基盤とし、身体のしくみだけでなく、ジェンダーや多様性など幅広いテーマを含む**包括的な性教育**が区内すべての中学校で始まりました。講師は、これまで**「性の知識は生きているすべての人に大切なこと」**と学校や地域で伝える活動をしてこられてきた**練馬助産師会の助産師さん**たちです。これまでの「生命の安全教育」よりも踏み込んだ内容ですが、子どもたちにわかりやすい言葉で伝わるよう工夫された授業が行なわれています。

授業を参観しましたが、やっと生活者ネットワークが求めてきた授業が練馬の子どもたちに届けられるようになったと感じました。授業は地域の方に公開している学校もあります。お近くの中学校にお問合せください。まだ始まったばかりで現時点では年に一度、中学2年生のみです。対象の学年など今後も拡充を求めていきます。

訪問介護職の人材確保支援事業 生活者ネットの提案で対象拡大へ

高齢者、障害者介護の人材不足が深刻です。区はこれまで、区民への良質な介護サービスを安定して提供できるよう、資格取得の費用助成などの介護人材の確保、育成に取り組んできました。今年度は、研修受講料無料で就業時間内の研修受講中も給与を支払うなどの「訪問介護採用応援補助事業」に取り組みます。

当初は、通信制や夜間の大学生を含め学生は対象外でしたが、一般質問で「人材確保のためにあらゆる手立てを尽くすべき」と取り上げたところ、「一律に対象外とすることなく、柔軟に対応する」と答弁しました。本事業を活用して介護職を志す人が増えることを期待します。

障害のある方の移動支援が不足！ ～移動は基本的人権です～

障害のあるお子さんの通学送迎等の付き添い介助（移動支援）の方が見つからないと相談が寄せられています。区は今年度より、サービス従事者を拡充するため、障害福祉サービス事業所に勤める方を対象に資格取得費用を練馬区が助成する「障害福祉サービス資格取得助成事業」を実施。しかし、**この事業を知らない事業者が複数あったため、さらなる周知を求めました。**

また、障害福祉サービスを利用する際に、当事者や家族の方が自らサービス事業者を探し、面談・契約まで行っている現状は労力が多大な上に、仕事を減らさざるを得ず家計の収入減につながるケースもあります。まずは**サービス事業者を見つけやすいよう福祉事務所が配布する事業者リストの整理・改善、さらにサービス事業者への人材育成・定着のための報酬引き上げ、区の独自加算を求めました。**

熱中症対策を強化！ クーリングスポット238か所開設

外出時に暑さを感じた際に熱中症を予防するため、一時的に休憩できる「クーリングスポット（涼みどころ）」を開設（区立施設93か所、薬局79か所、ファミリーマート66か所）。気軽に立ち寄れるように各所の入り口には目印となるタペストリーが掲示されています。各クーリングスポットには熱中症応急処置マニュアルが配備されています。

運用期間は
10月22日(水)まで

クーリング
スポットの
詳細は→



information

●所属委員会が決まりました



山崎まりも
文教児童青少年委員会
みどり・環境等特別委員会



やない克子
保健福祉委員会
医療・高齢者等特別委員会

●2025年第三回定例区議会

9月5日(金)～10月10日(金)

※本会議はインターネット動画配信（生中継）でも傍聴できます。

区議会ニュース第二回定例会報告号 2025年6月26日 発行 山崎まりも やない克子
〒176-0001 練馬区練馬1-15-1-302 練馬・生活者ネットワーク
TEL:03-3993-4899 FAX:03-5999-4632
webページ <https://nerima-seikatsusya.net/>
mail net-gikai@jcom.home.ne.jp ご意見・ご質問をお寄せください。



▲ご意見はこちら

生活者ネットワークは、地域の課題や生活者の声を集めて、区政につなげています。